カトリック大名町教会ニュース

DAIMYOMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

8

〔ミサ時間〕主日ミサ:(土)19時／(日) 7時・9時30分／英語ミサ(日)16時
〔ホームページ〕http://church.jp/catholic-daimyoumachi/
〒810-0041　福岡市中央区大名2-7-7　〔巡〕能古島カトリック教会　ミサ(土)18時
℡:092-741-3687　Fax:741-5107　〒819-0012　西区能古弁当 1621-12
発行責任者:杉原寛信神父

８月：聖母の被昇天祭（８月15日）！

福岡教区年間目標：ともに歩み　支えあっていく共同体

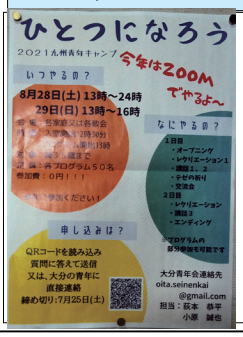
大名町教会年間テーマ：全ての人に対してキリストの光でありなさい！
Be the light of Christ to everyone.

８月のお知らせ

◆和田墓地納骨堂委員会から
＊８月15日の墓地ミサ中止
＊墓地開放日
・８月13日（金）
・８月14日（土）
・８月15日（日）
開放時間：10時から15時
＊納骨をご希望の方には、15日の13時から14時まで司祭が待機しています。
＊墓地訪問の時、コロナ対策の徹底に留意し、墓地委員の指示に従って下さい。

７月11日（日）、うれしい初聖体を受けた３人！

＊８月29日（日）予定の大名町教会の堅信式の準備は、オンラインで行われています。
＊信徒共同体の育て合うお祈りの支えをお願いします。



九州青年キャンプ in大分

勉強会

ジョン・ウォンチョル神父
・キリスト教入門講座（毎木曜日）
＊ＷＥＢで配信されています。
＊自宅で、どなたでも学べます。

堅信式
８月29日（日）

『ヨゼフ年』（～2021年12月８日）
教皇様が「ヨセフ年」を設けられたのは、聖ヨセフへの信心を深め、取り次ぎを願い、徳に倣うためです。使徒的書簡「父の心で」も読んでみましょう。

ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。

真剣に向き合う

東京オリンピックで日本人選手が活躍し、これまでの大会を超える勢いでメダル数を積み重ねている。選手は長い期間、黙々と日々の鍛錬と努力で汗を流し、様々な犠牲と挫折、自問自答のうちに悩み辛さを繰り返したに違いない。思わぬアクシデント（怪我）や自身との闘いの連続。関わりある多くの人々から様々な形で励ましを受け、支えられてやり遂げることを知った体験。結果により順位が決まる残酷さは確かにある。しかし成し遂げた爽やかさと、受け入れ難い悔しさが、次の１歩を踏み出させる。世界の人々に感動を与えている。観る人の、自分の人生の様々な場面に重なるから。

野球代表の巨人の坂本選手。高校時代の恩師、野球部監督の金沢成奉さんが、試合前に坂本選手にメールを送られた。

「いよいよ始まるな。人の心は動かそうと思って動くものじゃない。真剣に向き合う姿が人の心を動かす。難しいやろうけれど頑張ってくれ」。

コロナのインド株が猛威をふるい、これまでにない勢いで感染者数を積み重ねている。オリンピック選手たちは、どういう相手であれ、闘うことの勇気と諦めない気持ち、そして自身の節制を通して立ち向かう姿を魅せてくれている。コロナに向き合わなければ。

イエスも言われているに違いない。

「真剣に向き合い、難しいやろうけれど頑張ってくれ」。

カトリック大名町教会
主任司祭　ペトロ　杉原　寛信　神父

初聖体　教会学校から

３人の子ども達とご家族の皆様おめでとうございます。昨年10月からやっと学びを始めることが出来ました。月に１回の学びを喜んで来てくれて『神様のことが知りたい』『神様に近づきたい』。

皆さんに神様についてお伝え出来たことは大きな喜びでした。「ますます教会が楽しくなってきました」と初聖体の日に言ってくれた３人が、これからも仲良く、沢山の仲間と共に集える日を楽しみにしています。　担当リーダーより

ドミニク　冨田大雅

イエス様が体に来て、とてもうれしく、楽しい気持ちになりました。これからもミサや教会学校に参加していけるようにがんばりたいと思います。

・神様いつも見えなくても、見守ってくださりありがとうございます。今日は、ぼくたちのためにしゅくふくしてくださり、ありがとうございます。こんなうれしいことは、生まれてはじめてです。

ドミニク　冨田 大雅

マリア・インマクラータ
中牟田　陽向

今日、イエス様の体を頂いてとても嬉しいです。家に帰ってもらった花を花瓶に飾りたいです。これからも教会で、神父様のお話をよく聞けるようにがんばります。

・みなさんのおかげで、どんどん教会がたのしくなってきました。

これからも教会で、神様のことをいっぱいしれますように、がんばります。

マリアインマクラータ中牟田陽向

ペトロ　濱崎　昊斗

神父様が、イエス様のパンとぶどう酒をくれて、なぜか気持ちが豊かになりました。これからもいろんなこと、特に神様のことを知ることを頑張りたいです。

・神父様、いつもみんなをたいせつにして、しゅくふくしてくださり、ありがとうございます。教会のみなさんも、ありがとうございます。これからも、みまもっていてください。

ペトロ　濱崎　昊斗

幼児洗礼式　おめでとう

7月18日、パウロ藤澤勇海（ユウ）ちゃんの洗礼式

幼児洗礼の代父となり　おめでとうございます。そしてありがとうございます。７月18日、10時半のミサにおいて幼児洗礼式。アンドレア藤澤洋介さんと麻実さんの次男、勇海（ゆう）君、洗礼名パウロ。５年前にも長男、フランシスコ塁偉（るい）君の幼児洗礼の代父の恵みを頂き感謝するとともに、ご夫婦、そして関わる多く方の愛に包まれ健やかに成長していきますように祈ります。

フランシスコ・ザベリオ　濱崎公夫

大名町教会7月の現勢

【幼児洗礼】（ご両親）
・パウロ　藤澤　勇海（アンドレア洋介と麻実）

【初聖体】
・ドミニク　冨田　大雅
・マリア インマクラータ　中牟田陽向
・ペトロ　濱崎　昊斗

【転入】（…教会から）
・マリア　江藤 祐子／ヨゼフ　将浩（箱崎）

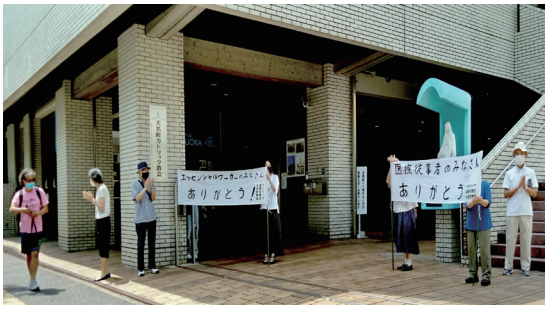
【転出】（…教会へ）
・カタリナ　松本恵理子（浄水通）
・カタリナ　小野じゅん子（糸島）

【結婚】
・7月24日　山下 一尚　ペトロ　中濱ゆかり

【帰天】
・7月22日　和田 春子（96）　テレジア

コロナの終息を祈るアンジェラスの鐘

金曜日 14 時　いま居るところで足を止め、手を止め祈りましょう。



福岡地区カトリック女性の会　たより

８月27日（金）10時から、カテドラル大名町教会大聖堂において、福岡地区カトリック女性の会主催のモニカ祭が行われます。昨年は、コロナ禍の緊急事態宣言をうけ開催できませんでしたので２年ぶりとなります。

恒例のモニカ祭は、女性の会が保護の聖人としていただている、聖アウグスチヌスの母親である聖モニカへの感謝ミサと、年間に帰天された会員関係者を始め、度重なる災害などで犠牲になられた方々のための追悼も行っています。

今回は２０１９年８月から２０２１年７月までの２年間の帰天者の方々を追悼いたします。

８月27日（金）、開催を予定していますがコロナ禍の感染症対策による人数制限のため、各小教区に参加人数の割当があり、参列希望が叶わない場合がありますこと、ご了承ください。

参加の可否は、後日、参列を希望された方全員に、ご連絡を差し上げます。

尚、参加申込は８月１日（日）が締め切りとなっていますのでご了承ください。また、感染症対策の為に、当日の参加はお受けする事が叶いませんのでご留意下さい。

モニカ祭についての詳細は、女性の会委員までお尋ね下さい。

・内堀綾子・土肥泰子・鈴木尚美

青年会　たより

★定例会のお知らせ

８月15日（日）10時半のミサ終了後、大名町教会青年会定例会を行います。

内容は、今年度の活動の相談をしたいと思いますので、お集まりください。

場所は、当日のお知らせをご覧下さい。

★７月18日（日）、手取教会の中高生企画のお手伝いに、福岡地区青年たちで、出向いて行きました。

手取教会（主任：桜井尚明司祭）で行われた中高生企画に、大名町の青年もお手伝いにうかがいました！

レクリエーションやサイコロトークで、楽しいお話やちょっと真面目なお話ができました！

中高生との交流を通して、とても元気が貰えた青年たち、福岡のためにも頑張ります！

マリア・パスカリア　林田明日香

かぜのささやき④

パンデミックの中、本当に周囲の方々があたたかい。司教・教会の司祭・助祭様方は私たちがいつもご聖体につながっていられるように細やかに配慮してくださる。又信徒の皆様は私たちのミッションを豊かにするために『存在・時間・もの』を惜しみなく分かち合ってくださる。又急に困難を抱えた方々の人数が増えて食料が足りなくなった時、フードバンクや美野島司牧センター等に相談すると二つ返事で助けてくださった。

「聖体に祈ってかなえられなかったことはありません。（礼拝会創立者聖マリア・ミカエラ）」19世紀に３回スペインでのコレラのエピデミックに遭遇した礼拝会の創立者聖マリア・ミカエラに起こったことが私たちにも今起こっている。

「自分自身が生活の中で体験する神のいつくしみ深い愛を福音化活動のうちに反映させる。また、キリストの変化させる力を信じているので、『世界と人間の中に存在するあらゆる形の悪から善を引き出し、促進する（聖ヨハネパウロ２世回勅「いつくしみ深い神」）』よう努める。聖創立者に倣って、私たちが遣わされる女性の自由と人格の尊厳を尊重し、常に応じ、聴き、理解する姿勢で接する。」（≪礼拝会　会憲≫「教会におけるわたしたちの使命」）

ある日信徒の皆様の沢山の優しい手を介して関西から「はるかのひまわり」の種が届いた。平成７年１月17日阪神淡路大震災発生７時間後に瓦礫の下から小学６年生のはるかちゃんの遺体が発見された。その場所に、半年後無数のヒマワリが力強く太陽に向かって咲いた。はるかちゃんのお母さんはひまわりをみて「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙したことから、この花を「はるかのひまわり」と呼ぶようになった。はるかちゃんを助け出せなかった悔しい思いからこの種を全国へ普及する『はるかのひまわり絆プロジェクト』が始まり、今年は礼拝会のお庭にも咲く予定だ。

辛い体験を重ねてきた女性や子どもたちと一緒に、わたしたちも「はるかのひまわり」を植えている。その種が芽を出し、太陽に向かって少しづつ少しづつ伸びていくのと同時に、その方々の心の傷も少しづつ少しづつ癒えていくように感じられる。

そのようなゆったりとした神の時（カイロス）を共に過ごせることは大きな喜びだ。私自身が不安や恐れを感じる時も、生活の中に流れる「礼拝」というもう一つの時間の中で、共に頂く解放の恵みによって変容され、私たちの霊性は深められていく。

旅立ちの日、初めて会った日には涙にぬれていた瞳に微笑を浮かべながら「がんばりまーす！」と大きく左手をふる子どもたち。右手には大きくなったヒマワリの苗を携えて。

聖体と愛徳のはしため礼拝修道女会

福岡修道院

Sr. 藤田優香

典礼部　たより

先日、母から「いしぶみ」という父方の先祖たちの信仰の歩みが綴られた本を貰いました。

１８８８年長崎県西彼杵郡里崎村（現・外海町）に住んでいた先祖達は、宣教師マルコ・ド・ロ主任司祭から信仰広布の為にと、送られ移り住んだ北松浦郡田平町（現・田平市）の地で、どのような信仰生活を送っていたのかが手に取るように書かれていました。

この本は、先祖たちが外海から田平に移住して90周年を記念し「合同祈願祭」を行った昭和58年12月25日に親族が発行したものです。

最初は（よそもの）と呼ばれ、受け入れてもらえなかったことや、ド・ロ神父様がご自分の私財で購入してくださった土地がやせた開拓地であった為、なかなか農作物ができずに夫婦二人で昼夜開墾したと書かれていました。

田平町に移り住んで間もなく夫が亡くなり二人の子どもを抱えての高祖母の生活は並大抵の苦労では無かったようですが、「信仰を移住者によって広める」というド・ロ神父様の強い使命を頂いた先祖たちは、「教え方」として委ねられた信仰を守り育て、カトリック的家族も築いていったようです。

先祖が移住してから１３４年、この本に出合えたことは何か神様からの計らいを感じます。

母国を離れキリストの信仰を伝えるために宣教師として日本に派遣されたド・ロ神父様の教えを受け、自分たちも故郷を離れて派遣され、開拓の地で貧しく生きながら、信仰を貫き、伝えた先祖こそ、聖家族に倣う奉献生活者だったのだと、感謝と尊敬の念にさせられます。

いま典礼部では毎月、典礼委員会を開き、分かち合いを中心とした勉強会を行っています。若い人達の話からは学ぶことも多く、皆で話し合いながら朗読者や聖体奉仕者も決めています。新たな朗読奉仕者が名のり出たり、皆で参加して作り上げていく小教区としてのより良い典礼の形が見えてきていると思います。

典礼部は先唱者、オルガン奏者、聖歌隊、侍者、手話、花活け係、香部屋係、朗読奉仕者、聖体奉仕者とミサ全体におよぶ奉仕になります。コロナ禍でのミサでは、いろいろな制限があります。その中、それぞれの奉仕者の努力と協力によって、主日のミサが感謝のうちに捧げられています。

信仰を受け継ぎ、伝えていこうとする時、重たさを感じる時があります。でも、教会の奉仕を通して、後に続く若い世代の方々との協力や分かち合いもできます。

蒔かれた種の一粒一粒として実り合い、活かしあっていきたいと思っています。

典礼部　マリア　大石和枝

会長のつぶやき

日々、過ぎ去る

♪ごらんよそらの雲、輝く虹を、地に恵みの雨降らせ、鮮やかにはえる。♪

農家の人々の朝は早い。生い茂る草木、一苗、二苗植えられた稲も成長し豊かな沢山の束となり、田園は緑の苗に包まれている。

草刈り機を肩に背負い、畦道や土手に茂った草を刈り取る機会音が朝早くから聞こえてくる。麦わら帽子に手ぬぐい、汗がほとばしる様を見させて頂いた。豊かな実り収穫を祈り、雑草の種がよい土地に飛散せぬようにと刈り取っていく。これこそが、大地の恵み、労働の実り、命の糧となるものでしょうか。

稲の成長期、田園地帯は創造主の思いと労働者の思いが一つになり、美しい姿を醸し出している。今日は一粒万倍の日、一粒の麦、落ちて死ねば多くの実を結ぶ。聖書の言葉もこの大地の『さま』によみがえる。

あれから１年。京都から長崎までの日本２６聖人の歩いた『長崎への道』、日記を基に紙上巡礼。その日を思い起こし、その日のみことばに触れ、さらには今日のみことばを読み、２６聖人の思いを黙想し深める巡礼の旅。朝４時半起床、あの日に心を馳せる。今年も29日、西坂に辿り着く。仕事をしながらの紙上巡礼。

１年たった今、巡礼を通してたくさんの出会い、交わり、そして学び。何よりもパウロ会の小川ブラザーとのつながり。西新教会から13名の方が九州路を巡礼の旅、友の会に入会された。

４人の聖人。パウロ三木、ディエゴ喜斎、アントニオ、ヨハネ五島の保護と神への祈りのたまものだと思います。神様からの豊かなプレゼントに感謝し、蒔かれた良き種を回想し、農家の人たちのように、ひたすら良き汗を流し続けていきたいと思います。

この厳しいコロナ禍こそ、♪どんなに苦しい悩みの日にも希望をそそぐ父がいる♪

大名町教会信徒会長
フランシスコ・ザベリオ
濱崎　公夫

教会の前の花壇も給水します。

10時半ミサ後、お水を用意しました。体にも給水。